



こくさいこうりゅういん

国際交流員の おすすめ本^{ほん}

2020年
秋号

Meine Empfehlung:

Die etwas anderen Bücher!

おすすめのちょっと変わった本!

Обязательно прочитай эту книжку!

Она такая интересная!

この本、ぜひ読んで! 面白いよ!

재미있는 동화책 같이 읽자읽자~

面白い絵本、一緒に読もう~



世界のえほんを 読んでみよう！



Hallo! (ハロー)

ドイツから来た国際交流員の Oliver Gierl (オリヴァー・ギール) です！
楽しくて、ちょっと不思議な本を 2冊、みなさんに紹介したいと思います！
テーマは、「うんち」と「本の中の世界」です！気になりますか？



『うんちしたのはだれよ！』ヴェルナー・ホルツヴァルト ヴォルフ・エアルブルッフ (J/ウ)

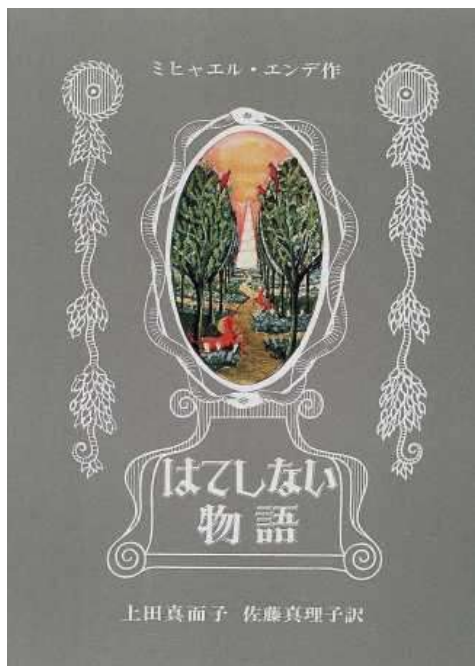
あるひ、もぐらくんが じめんから かおを だしたら、うんちが あたまに おちてきました！でも、めの わるい もぐらくんは はんになが みえませんでした。うんちを だれが じぶんの あたまに おとしたのか みつけるために もぐらくんは ほかの どうぶつたちに たずねて はんになを さがしだします。

保護者の方におすすめポイント

27 以上の言語に翻訳され、世界中で 300 万部以上発行された、ヴェルナー・ホルツヴァルトとヴォルフ・エアルブルッフの作品で、子どもたちは、楽しくさまざまな動物の糞またはそれぞれの違いについて知ることができます。便の排泄などの話しづらいテーマについて話しやすくなることから、トイレトレーニングに便利な本ですが、子どもたちも喜ぶユーモアたっぷりの絵本です！



世界の本を 読んでみよう！



『はてしない物語』ミヒャエル・エンデ (J94/エ)

10歳のバスチアンが手に入れた『はてしない物語』という本にはファンタジーエン国の悲劇的な物語が書かれていた。正体不明の〈虚無〉の拡大によってファンタジーエンは崩壊しつつあった。

そのファンタジーの本を読むバスチアンはあることに気づく。ファンタジーエン国を救えるのは、自分の他にはいない！本の世界に取り込まれたバスチアンは友や力を得て、試練を乗り越えていくが、元の世界に戻れるかどうか危うくなる……

保護者の方におすすめポイント

作家のミヒャエル・エンデは、この40か国語以上に翻訳された『はてしない物語』で複数の文学賞を受賞し、本作品は『モモ』や『ジム・ボタンの冒険』などのエンデ作品の人気をも上回りました。

1982年に日本訳版が発売されたこの本を読んで、子どもの頃にその世界に引き込まれた保護者の方々も多いと思いますが、今でも『はてしない物語』はその魅力を失っていません！

日々、いじめを経験していた主人公が自ら小説に描かれているファンタジーエンに入り込み、救い主の道を歩みながら本当の自分を探します。自我の喪失と引き換えに、バスチアンは力を得ますが、現実に戻るためには、自分が本当に求めるものが何なのかを解明する必要があります。

大人でも取り込まれそうな世界感とバスチアンの旅の過程そのものが、その物語を紡ぐミヒャエル・エンデの小説家としての表現力の高さを表しているとも言えます。

中学生以上向けの小説ではありますが、漢字にふりがなも振られていますので、読書に慣れているお子さんなら、小学生でも、十分楽しめる小説です。



世界のえほんを 読んでみよう！



みな
皆さん、こんにちは！Здравствуйте! (ズドラーストヴィチエ)
さっぽろし
札幌市ロシア国際交流員のАлёна (アリョーナ) です。



ロシアの本を読んだことがありますか？

きょう
今日は皆さんに不思議な世界への扉を開く本を紹介したいと思います。

ねん
1年は何か月でしょうか？

げつ
12か月だね。1月、2月、3月…

それぞれの月には、わたしたちのように
「なまえ」と「せいかく」がある。きせつ
つがうつりかわっても「ふゆ」と「なつ」
は、であることはないでしょう。

でも、あるおんなの子が、ままははのめいれい
いで冬に春のお花をさがしに森にいきました。そして12月のせいたち12人
とであいました。このふしぎなであいが、なにをもたらしたのかな？



『森は生きている』(J/ネ)
マルシャーク作 エリョーナ絵

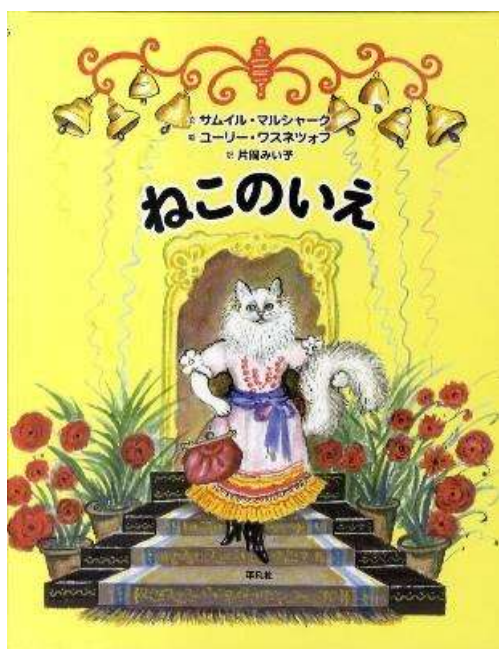
保護者の方におすすめポイント

「森は生きている」という本はスラブ民話を元に書かれた有名な作品で、登場しているキャラクターの人生や性格を変えるアドベンチャーのストーリーです。「12か月物語」、「12の月たち」という題名でも知られていますが、これらは劇として書かれたものなので、登場人物や内容は少し異なります。

多くの昔話のように、当作品は人間と自然の深いつながりを紹介すると共に、善と悪の対立というテーマを取り上げています。しかし、作者は善と悪をはっきり分けてはいないので、本を読んでいる子どもたちが自分で人物の行為を分析することができます。



世界のえほんを 読んでみよう！



『ねこのいえ』(J/ネ)

サムイル・マルシャーク／文
ユーリー・ワスネツォフ／絵

おしゃれな ねこねえさん、とても すてきな
いえを たてたよ！じまんしたくて お友だ
ちの どうぶつを しょうたいして せいだい
な パーティーを ひらきました！

でも、まずしい 子ねこさんたち だけは な
ぜか 入れて もらえなかった みたい…

たのしい パーティーが おわると とつぜん
たいへんな おおかじに！ いっしゅんで す
べてをうしなってしまった ねこねえさんを
たすけてくれたのは だれでしょう？

保護者の方におすすめポイント

サムイル・マルシャークはロシアで一番有名な子ども作家です。子どもたちにやさしくて分かりやすい本をたくさん書いており、どれも内容が深く、大人の心にも届くとよく言われています。

「ねこのいえ」という作品で登場するお金持ちのねこねえさんは自分のことしか考えないタイプで、貧しい甥の子猫たちの存在を無視しています。

しかし、火事が起きた時、思いやりのある甥が手を貸して、おばさんを救います。ねこねえさんが考え方も性格が変わり、子猫たちと一緒に新しい家を作って家族として幸せに生活するようになります。「ねこのいえ」という作品は、周りの人に対して気遣いや配慮をすることは大切だということを伝えています。また、独特のリズムがあるので、演技しながら読むのも、かわいいイラストを見ながら聞くのも楽しいです。



世界の本を 読んでみよう!



안녕하세요! アンニョンハセヨ!

札幌市の 韓国国際交流員 이미현(イ・ミヒョン)です。

みなさん、元気に過ごしていますか。

今日は中高生のみなさんが、教養の秋に読める韓国の小説を1冊紹介したいと思います。



今日みなさんに紹介したい本は
「82年生まれ、キム・ジョン」です。

韓国に興味のある人なら一度は聞いたことのあるタイトルかもしれません。実は4年前の2016年に出版された本ですが、今でも話題性があり世界からも注目を浴びていますので、この機会にみなさんにご紹介したいと思います。

現代の女性の生き方を淡々と述べているこの本は、たくさんの韓国の女性から共感を得ています。その理由は、ごく普通の家庭に生まれ育ったごく普通の韓国の女性の話だからなのだと思います。

80年代生まれの女性は、前の世代に比べると教育の機会もちゃんと与えられて、大学を卒業した後は会社に就職し社会活動を行っている世代の人たちです。

以前に比べると「男女平等」な社会で色々な機会に恵まれていると言われていますが、それでもやはり性差別は息をひそめて自然に社会のあちこちに潜んでいます。何百年、何千年もの男性中心の歴史を経てきている社会に私たちは住んでいます。その長い歴史からの産物がすぐに無くなるわけではありません。むしろ鈍感になりすぎて「それが差別？」と思うこともたくさんあるでしょう。



『82年生まれ、キム・ジョン』
チョ・ナムジュ (929.1/チ)



世界の本を 読んでみよう！



「82 年生まれ、キム・ジヨン」には、そのような韓国社会に自然に溶け込んでしまっている女性差別の話をしています。

しかし、私が最も驚いたのはこの本が、韓国・アジアを超え、世界の女性から共感を得ているという点にあります。



世界の女性から共感を…

「82 年生まれ、キム・ジヨン」が日本や中国、台湾に翻訳され出版されると聞いた時には、アジアでは「儒教」の文化を共有しているため、共感を得るところが多いだろうと予想していました。しかし、イギリス・フランス・スペイン・イタリアなどの西洋の国を含む世界 17 か国でこの本が読まれ、この話は「韓国の女性に限らない世界の女性に共通する普遍的な話」と言われた時には少しびっくりしました。細かいところを見ると韓国の話になりますが、「経歴断絶」や「ガラスの天井」のように、この本のストーリーを貫くもっとも大きなテーマは世界で共通する話だということでしょう。

アメリカの「BLM (ブラック・ライヴズ・マター)」運動のように世界的に人権運動が活発に行われている今の時代に「女性」に関する話題もたくさん話されています。例えば日本でも深刻な少子化問題の対策を話す時に「女性」は欠かせない大事な鍵となります。教養の秋に人権そして女性に対して考えてみる機会となる「82 年生まれ、キム・ジヨン」を読んでみてはいかがでしょうか？



「こくさいこうりゆういん」ってなに？

「国際交流員」は札幌のみんなが外国のことを知って
なかよくするためのお手伝いをしています。

今は韓国、中国、アメリカ、ドイツ、ロシア、フランスから
来た7人のお兄さん、お姉さんがいます。

みんなの知っている国
はいくつあるかな？



ほんをおしえてくれた「こくさいこうりゆういん」

ドイツ



オリヴァー・ギールさん

札幌の姉妹都市「ミュンヘン」からきました。
17歳で初めて日本の高等学校に留学し、1年間ホーム
ステイをしながら日本語を勉強しました。
趣味は語学学習、写真撮影、映画鑑賞です。

ロシア



フェシナ・アリョーナさん

札幌の姉妹都市「ノボシビルスク」からきました。
高校生のときに初めて日本語を聞いて、言葉がまるで
歌のようだと思い、日本語を専門にしようと決めまし
た。趣味はカラオケと音楽鑑賞です。

かんこく
韓国



イ・ミヒョン（李美賢）さん

日本語に夢中になったきっかけは、学生時代の日韓
青少年交流事業で、私が札幌で行う国際交流が、ま
た誰かのきっかけになればと思っています。12月生ま
れで、冬が大好きです。

保護者の皆様へ

札幌市では、市民の皆様の異文化理解のための活動や、姉妹友好都市をはじめとした海外諸都市との交流、札幌市の国際関係事業の企画立案などのため、海外から「国際交流員」を招致しています。

札幌市国際交流員についての詳細は以下ウェブサイトをご覧ください。

<https://www.city.sapporo.jp/kokusai/cir.html>

札幌市 総務局 国際部

※この冊子についてのお問い合わせは中央図書館利用サービス課（TEL512-7320）へ